



2020年3月5日 「奥浅草だより」第30号

吉原遊郭 桜を飾る

公認の遊郭 吉原遊郭は江戸時代、男の人のためにつくられた幕府御用のテーマパーク。今もなお地図上の地割がくっきり残っている吉原遊郭跡地。吉原大門（よしわらおおもん）をはじめ、ところどころに、往時の町名が掲げられています。明治期になっても公娼の制度は変わらず太平洋戦争の後まで続き、売春防止法が施行されたのは 339 年後の 1956 年でした。

夢の国の仕掛け 遊郭は、周囲を「お歯黒どぶ」に囲まれた東京ドーム約 2 個分の城塞のような敷地で、中央を走る「仲の町（ちょう）」という直線のメインストリートは 230 メートル余り。ここが、毎年、桜の季節に花盛りとなります。その桜というのは、咲きごろの桜を千本も切ってきて、山吹を添えて植え込むのです。そして枯れ始めの分から撤去するという手間をかける。つまりこの季節、常に満開の桜が楽しめるのです。さらにこの時期には、遊郭の客でなくとも出入りができるという特別公開。また、桜の季節が終わると他の植材を植えたり、数々のイベントが開かれるなど、お祭り広場ともなりました。

歌舞伎で再現 遊郭の花見の様子は、歌舞伎の「助六由縁江戸桜」で目の当たりに見ることができます。

浅草観音うら 一葉桜まつり 遊郭のお花見は、江戸時代末期まで続きました。それを、桜の季節に復活させようと 2003 年から 4 月 2 週目に、無形財産「江戸吉原おいらん道中」を行い、人気を集めています。桜は、遊郭のスーパーシンボルと言えるでしょう。

~~~~~

この奥浅草だよりは『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後、話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページでもご覧に手いただけます。 <http://www.sanox.co.jp>

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子